

令和5年度決算認定に係る観光スポーツ文教警察委員会の質疑内容

(教育委員会関係)

◆主な質疑

- 1 えひめ版学力向上推進事業について (中野委員)
- 2 不登校児童生徒等支援事業について (中野委員)
- 3 高等学校管理費の不用額について (中野委員、小島委員)
- 4 特別支援学校費の不用額について (中野委員)
- 5 えひめ高等学校全国募集促進事業について (小島委員)
- 6 ソーシャルチャレンジ for High School 事業について (山本委員)
- 7 大学入学共通テストの受験に係る支援について (西岡委員)

○=次年度に決算特別委員会で対応状況を報告する事項

1 えひめ版学力向上推進事業について

【中野委員】

EILSのタイピングコンテストにおいて、平均入力文字数は小学6年生が最大値で、中学生は低下しているが、パソコンやタブレットの使用年数による影響は分析しているのか。

【義務教育課長】

学年ごとの詳細な分析まではできていないが、それぞれ前年度と比較した分析を行っている。

2 不登校児童生徒等支援事業について

【中野委員】

不登校児童生徒に適切な教育機会を確保している割合について、5年度の目標値63.7%に対する実績値が46.7%と乖離しているが、今後どう取り組むのか。

【義務教育課長】

本事業では、登校はできるが教室に入りにくい生徒には校内サポートルームによる支援を、また、自宅から出られない児童生徒にはメタサポキャンパスによる支援を行うなど教育機会の確保に努めている。今後、更なる支援内容の充実を図りながら成果の向上を図りたい。

【中野委員】

県教委と市町教委が一丸となって不登校問題に取り組んでいる一方、全国的に不登校出現率が上昇しており、対応の困難さを感じている。来年度も大胆に取り組みを進めていただきたい。(要望)

3 高等学校管理費の不用額について

【中野委員】

空調設備等に係る経費を含む高等学校管理費の不用額が約11億円あり、近年、体育館のエアコン設置の要望がある中、その整備に予算を充当できなかったのか。

【高校教育課長】

県立学校のエアコンについて、普通教室は令和2年度に設置が完了し、現在、5年計画で特別教室への設置を進めており、特別教室に移動すると暑いという生徒からの声に対応している。リース契約の終期等の関係で、執行上不用額が生じているものであり、設備自体の更新は、計画どおり進んでいる。

【小島委員】

県立学校体育館へのエアコン設置を要望する声を聞くが、一般教室と比較すると多額の経費を要するものである。今後の体育館へのエアコン整備をどう進めていくのか。

【高校教育課長】

9月議会で教育長が答弁したとおり、体育館へのエアコン設置は、設置計画の要否を含め検討しているところである。設置する場合、電源装置を含め大規模な工事

になると考えている。

4 特別支援学校費の不用額について

【中野委員】

特別支援学校は、教員の負担が大きく、教員不足も指摘される中、特別支援学校費に約3億円の不用額があるが、詳細な理由は何か。

【特別支援教育課長】

特別支援学校費のうち、就学奨励費については、特別支援学校に通う児童生徒の保護者の世帯収入に応じてⅠ～Ⅲ区分に分かれるが、昨年度の収入実績をもとにした仮区分決定から、本決定時の区分変更により、支給額が減少したものである。

また、スクールバスの安全対策に係る経費については、バスへの置き去り防止の安全装置に係る入札額の減少によるものである。

【高校教育課長】

教職員経費については、教員の条例定数と実際の配置数に差があるため、不用額が発生している。

なお、国が定める標準法定数は満たしており、教員数は不足していないが、病休や産休等に対応できる予算措置を行っていることによるものである。

5 えひめ高等学校全国募集促進事業について

【小島委員】

全国募集により今年度入学した112名の県外生徒は、現在も在籍しているのか。

【魅力化推進監】

例年、年度末に在籍状況調査を行っており、現時点の数値は持ち合わせていない。

【小島委員】

生徒が減少していく中、学校の存続に向け県外生徒を募集する取組みは重要である。また、県外生徒が入学した小規模校の魅力を発信してくれると好循環が生まれるため、入学した生徒とのコミュニケーションを大事にしてほしい。（要望）

6 ソーシャルチャレンジ for High School 事業について

【山本委員】

人口減少が進み、伝統文化の継承が困難となる中、私の地元である離島では、高校生の参加により和船競漕という地域の祭りが復活したとマスコミに取り上げられたが、「ソーシャルチャレンジ for High School 事業」の取組みと関連はあるのか。

【高校教育課長】

同事業は、高校生が地域社会と連携して課題解決に取り組むこととしているが、その探究活動として「地方創生」「SDGs」「キャリア教育」の3つのテーマがあるうち、地域の祭りの復活は、「地方創生」にあたるものである。地域の伝統行事・文化・歴史等を探究する中で、いくつかの高校から、生徒の活躍により地域の

祭りが復活したとの報告を受けており、各校がしっかりと同事業に取り組んだ成果と認識している。

【山本委員】

同事業は、生徒のアイデンティティの確立や郷土愛の醸成につながるため、継続実施により、今後も地域活性化の後押しをしてほしい。（要望）

7 大学入学共通テストの受験に係る支援について

【西岡委員】

大学入学共通テストの試験会場の増設について、各自治体から要望が出ているが、受験に際し、遠隔地に居住する生徒への宿泊費助成等の支援は行っていないのか。

【高校教育課長】

個人の受験に関することであり、支援は行っていない。

【西岡委員】

松山市内でも宿泊費が高騰していることから、地理的に不利な生徒が受験すると、多額の費用がかかる恐れがあるため、早急に何らかの対策を検討してほしい。（要望）